

未来館の科学コミュニケーター人材育成は、本格運用3年目を迎えた。本年度は館内科学コミュニケーターの育成システム、および館外で科学コミュニケーション活動に携わる人々を対象とした研修プログラムのさらなる充実と定着化に努めた。その中で、特に科学コミュニケーターとしての理科教員の育成と支援に注力し、文部科学省指定の教員免許状更新講習（予備講習）などを行った。また、科学コミュニケーター養成に携わる他の機関や関係者とともに、課題の共有化やネットワーク構築を目的としたイベント開催や情報発信も積極的に展開。未来館は科学コミュニケーター人材の育成拠点としての基盤を着実に築きつつある。

館内スタッフの人材育成

科学コミュニケーターとして社会が求める資質を認識し身につけることによって、科学コミュニケーターとしてスキルアップすることを目的とし、基礎的な知識やスキルを専門家より学ぶ場を提供した。科学コミュニケーター全員必修の「一日研修」では、ワークショップやディスカッションを多く取り入れ、知見の共有を図った。また、選択制の研修では、科学コミュニケーターに求められる3つのスキルに係わる知識について、演習を通して学べるような講座を実施した。

また、科学コミュニケーターとして、できるだけ多様で実践的な科学コミュニケーション活動の「知識」と「経験を積む機会」を得るため、他部署での実務を行う、館内インターンシップを実施した。この機会を通して、視野を広げ、個人のキャリアパス拡大・強化を図るとともに、他の科学コミュニケーターへ刺激を与え、館内の科学コミュニケーション活動全体を活性化させることをねらいとしている。

● 担当スタッフ：山科直子、菅原剛彦、酒井タ子、今岡由佳子、寺嶋加奈子、櫻井英雄、濱亜沙子（科学コミュニケーション推進室）



科学コミュニケータースキルアップ講座（ファシリテーション研修）

■ 館内スタッフ向け研究者レクチャー実績一覧

日 程	講師名	講義内容（タイトル）
H 20/4/12	Dr. Arne Christer Fuglesang (European Space Agency)	My journey to ISS
H 20/4/14	長神風二（東北大学）	サイエンスアゴラを立ち上げて
H 20/4/21	塩谷光彦（東京大学）	ナノ超分子への挑戦
H 20/5/11	岡本文典（国立天文台）	太陽研究最前線～観測衛星「ひので」が捉えた太陽の活動～
H 20/5/28	西田佳史 (産業技術総合研究所)	子供の事故を予防する～日常系の科学：日常行動センシングと確率的モデリング～
H 20/6/21	北森武彦（東京大学）	マイクロ・ナノチップの研究から医療の世界へ
H 20/6/25	加賀美聡 (産業技術総合研究所)	ロボットの情報科学技術
H 20/7/28	光山統泰 (産業技術総合研究所)	データベースから見たゲノム科学
H 20/8/24	浅野暢一、山口剛 (東京工業大学)	東京工業大学広瀬研究室発！移動ロボット大集結！
H 20/8/27	南繁行（大阪市立大学）	未来館でオーロラを作ろう！
H 20/9/5	品川満（NTTマイクロシステムインテグレーション研究所）	人体近傍の新通信技術の紹介
H 20/9/21	近藤滋（名古屋大学）	生き物の模様はなぜできる？
H 20/10/10	田沼逸夫 (株式会社ブリヂストン)	電子ペーパーの開発と応用について
H 20/10/18	松岡正光（三重大学）	木の新しい見かた、使いかた
H 20/11/12	酒井敏（京都大学）	フラクタル屋根を用いたヒートアイランド緩和への新提案
H 20/11/27	西井一郎（理化学研究所）	ボルボックスから素粒子まで～理化学研究所×未来館研究アウトリーチの可能性
H 20/12/14	竹永秀信（日本原子力研究開発機構）／柳長門（自然科学研究機構）	地上に太陽をつくる
H 20/12/22	霜田政美 (農業生物資源研究所)	遺伝子で見る昆虫の力～昆虫を使って人間の病気を解明する～

H 21/1/10	瀬筒秀樹 (農業生物資源研究所)	生物がつくるイルミネーション！？～ノーベル化学賞の成果で見てきた世界～
H 21/1/16	富岡雅寛 (カオスモスマシン)	カオスの可視化～CHAOS M O Sの魅力～
H 21/1/26	有山一郎 (東京大学、日立情報通信エンジニアリング株式会社)	レーザースキャナを利用して歩行者の動作をモニタリングする
H 21/2/4	宮川剛（藤田保健衛生大学）	遺伝子改変マウスの表現型解析を起点とした精神疾患の研究
H 21/2/16	長瀬祐（株式会社バンダイ）	「科学×遊び」で生まれる、新しい親子コミュニケーションの提案
H 21/3/19	藤原義弘（海洋研究開発機構）	深海の環境と生物の関係を解き明かす
H 21/3/23	富井健太郎 (産業技術総合研究所)	タンパク質の立体構造予測

■ スキルアップ講座実施（レクチャー・演習）一覧

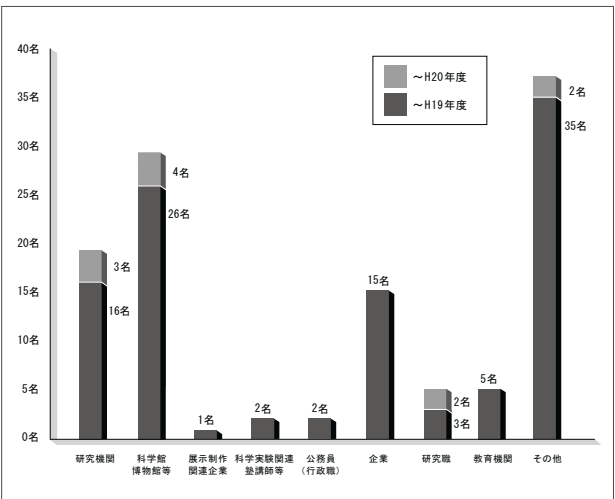
日 程	講師名	講義内容
【レクチャー】		
H 20/4/15	引野肇（東京新聞）	ライティングスキル研修
H 20/4/15	小畑順哉、田村慎一、矢島正晴、柴田一浩、成川衛（科学技術振興機構）	「科学技術連携施策群の取組と今後の展望及び科学技術連携施策群について」 「新興・再興感染症」連携施策群 「食料・生物生産研究」連携施策群 「生命科学の基礎・基盤」連携施策群 「臨床研究・臨床の橋渡し研究」連携施策群
H 20/7/15	小林康宏、岸徹 (科学技術振興機構)	国及び総合科学技術会議（GSTP）としての問題意識と取り組みと今後の方向性について 「ユビキタスネットワーク」連携施策群 「テロ対策のための研究開発」連携施策群
H 20/7/15	野口朋子（日本科学未来館）	「アンケート調査概論」
H 20/7/15	今岡由佳子（日本科学未来館）	「科学コミュニケーションデザイン」
H 20/10/14	正木法雄（科学技術振興機構）	「科学技術施策動向～戦略的創造事業について～」
H 20/10/14	妹尾堅一郎（東京大学）	「脱“科学的”思考法講座～実践知と経営知の世界～」
H 20/10/14	山下光保（株式会社バンネーションズコンサルティンググループ）	「ロジカルコミュニケーション」
H 20/10/14	八幡紘芦史（NPO 法人国際プレゼンテーション協会）	「プレゼンテーション基礎講座」
H 21/1/27	上野啓子 (有限会社インタービスタ)	「来館ニーズ分析～インタビュー調査手法を参考に～」
H 21/1/27	津曲公二（株式会社ロゴ）	「プロジェクトマネジメント研修」
H 21/1/27	加藤昌治	「考具～アイデアから企画へ～」

【演 習】		
H 20/4/21・5/12・5/26・6/2・5/16・6/30	引野肇（東京新聞）	ライティングスキルアップ講座
H 20/12/2	八幡紘芦史（NPO 法人国際プレゼンテーション協会）	プレゼンテーション実践講座
H 21/2/24	彦田友治、彦田美香子 (株式会社グローバル・シフト・コミュニケーション)	ファシリテーションスキルアップ講座

■ 科学コミュニケーター館内インターンシップ実施一覧

部署名	内 容	期 間
科学コミュニケーション推進室 ボランティア・友の会グループ	友の会イベントの企画・実施サポート／友の会イベントの企画立案・実施以上に係わる各種調整	H 20/5～H 20/11
科学コミュニケーション推進室 ボランティア・友の会グループ	友の会イベントの企画・実施サポート／友の会イベントの企画立案・実施以上に係わる各種調整	H 20/12～H 21/3
広報・国際渉外室 広報・国際渉外グループ	取材誘致に係わるアシスタント取材対応、取材記録に係わるアシスタント以上に係わる各種調整	H 20/10/1～16
マーケティング統括室 マーケティング統括グループ	「未来館認知度調査」に係わる顧客分析	H 20/9/16～30
アウトリーチ展開業務室 展開業務調整グループ	科学館連携協議会全国科学館職員研修に係わる企画及び調整業務	H 20/11/4～18
ミュージアム運営業務室 利用促進グループ	友の会イベントの企画・実施サポート／友の会イベントの企画教育委員会、教育機関、旅行代理店等への利用促進営業利用促進営業に係わる各種調整／館内視察対等以上に係わる各種調整	H 21/3/9～22

■ 開館以来の未来館科学コミュニケーター輩出の実績



外部人材の育成について

科学技術をわかりやすく社会に伝える人材を育成するための研修プログラムを外部人材にも提供している。本研修は、研究者、教員、博物館・科学館職員など、さまざまな立場で科学技術に携わる人々のコミュニケーション能力の向上を支援することを目的として開発したものである。「科学コミュニケーター」という人材に対する社会的なニーズも踏まえながら、未来館がもつ人的、物的なりソースと科学コミュニケーション活動の実績を活かして独自に構築した2つのプログラムを実施した。

1. 科学コミュニケーター研修プログラム（短期研修）

科学コミュニケーションに関するゲームやレクチャー、グループワークやプレゼンテーションを通じて、科学を伝える手法の多様性を知り、科学コミュニケーションに必要なスキルや考え方を研修生自ら発見することを目的としたプログラムで、「情報コーディネーション講座」「プレゼンテーション講座」「ファシリテーション講座」の3講座からなる。本年度は全6回、のべ142名が受講し、3講座全てを修了した33名に「日本科学未来館 科学コミュニケーター研修プログラム修了証」を授与した。さらに本年度は、文部科学省より「教員免許状更新講習（予備講習）」に指定され、対象者30名が受講した。研修後の修了生アンケートの結果では、「本研修が今後の活動に有用かどうか」という項目について、99%の高評価を得た。



グループワークを行う受講生

2. 科学コミュニケーター1年研修（長期研修）

未来館のグループあるいはプロジェクトチームの一員として、未来館活動に主体的に参加しながら、さまざまな科学コミュニケーションスキルやノウハウを習得し、研修生自ら研修テーマや各々のバックグラウンドを反映した活動を企画・立案し実践するプログラムである。本年度は、高等学校教頭1名、高等学校教員1名が受講し、それぞれ「教員の資質向上を目指した外部機関との連携に関する研究」「学校と研究機関における新たな連携について～先端科学技術を伝える手法の研究～」という研修テーマに基づき活動を行い、「日本科学未来館 科学コミュニケーションアソシエイト」資格が授与された。

● 担当スタッフ：山科直子、菅原剛彦、山本広美、酒井タ子、今岡由佳子、山口美佳（科学コミュニケーション推進室）



展示場で来館者と対話を行う研修生

科学コミュニケーターのネットワークづくり

国内外の科学コミュニケーター育成機関や科学コミュニケーション活動に従事する人々とのネットワークの強化とさらなる交流、科学コミュニケーションの啓蒙および科学コミュニケーターが切磋琢磨する場の提供をめざし、さまざまな催事を企画・実施した。

国内外の科学コミュニケーターが集う「サイエンスアゴラ2008」において、19年度に引き続き開催したプレゼンテーションコンテスト「サイエンス・プレゼンテーション2008」（11月23日）を開催。先端の科学技術研究や原理・原則を平易に楽しく伝える「サイエンスショーの部」と、科学と社会との関連性をとらえ、啓発・問題提起を行う「プレゼンテーションの部」を設け、総勢9組14名がそのスキルを競い合った。のべ340名の観覧者を得て、サイエンスプレゼンテーションに対する関心の高さを示すとともに、審査委員や出場者、観覧者からも切磋琢磨の場として高評価を得た。

さらにワークショップ「サイエンスアゴラ2008 語り場～これからの科学コミュニケーター養成を考える～」を開催（11月24

日）。科学コミュニケーター養成における課題を抽出・共有することを目的として、有識者による国内外の事例発表と、「国として、行政・教育機関などが行うべきSC 養成の取り組みとは？」「SCに必要な能力（共通点・特異点）とその水準とは？」など、4つのテーマに分かれ、大学・科学館・博物館・NPO など40名がこれからの科学コミュニケーター養成について議論した。

この他、国内外で開催される学会・シンポジウムへの参加や論文・記事の投稿などの機会を、19年度に引き続き積極的に活用し、科学コミュニケーターの育成の重要性や未来館の取り組みについて情報発信を行った。

● 担当スタッフ：山科直子、菅原剛彦、山本広美、酒井タ子、今岡由佳子（科学コミュニケーション推進室）

● 審査協力：上田昌文（市民科学研究室）／木村龍治（放送大学）／チャーリー西村（米村でんじろうサイエンスプロダクション）／八幡紙芦史（NPO 法人国際プレゼンテーション協会）／横山広美（東京大学）／中島義和（日本科学未来館）



サイエンスショーの部の出場者



テーマごとのグループディスカッション

日本科学未来館の科学コミュニケーター



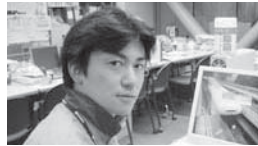
五十嵐海央

海洋生物資源学専攻(修士)。環境教育施設に勤務後、19年度より現職。19年度末からASMO 担当を務め、物理が苦手な自分でも技術に興味をもつことを体感。20年度は館長講演やサイエンスアゴラでのイベント司会を担当。さまざまな方法・ツールでの科学コミュニケーションに挑戦したい。



池辺 靖

理学博士。宇宙物理の分野で、理化学研究所、ドイツマックスプランク宇宙空間物理学研究所、アメリカNASA/GSFCにおいて9年半の研究生活を経て、平成16年10月より未来館勤務。地球環境とフロンティア分野担当。



石川 泰彦

展示場における対話解説経験をもとに企画担当した地球環境分野常設展示が平成20年10月公開。現在、そこで交わされる対話から来館者が主体的に展示や科学コミュニケーターを活用できる仕組みを模索中。今後は、未来館における科学コミュニケーションのノウハウを学会や講義で発信していく。



一木良子

福岡出身。専門は応用昆虫学。理学博士。日本学術振興会特別研究員を経て、平成19年4月より未来館に勤務。自らの経験を生かし、昆虫を材料とする最新のユニークな研究を多数紹介していきたい。



出井正道

高校で微生物を用いた商品開発に携わる。大学で微生物学、食品科学を学んだ後、研究所に勤務し、水素・メタン二段発酵のプロジェクトに参加。平成18年度から未来館に勤務。微生物にロマンを感じている。科学を知ること視野が広がっていき感動を多くの方々と共有したい。



井上直子

化学専攻(修士)。平成18年から未来館の展示フロアにて科学コミュニケーションを行っている。メーカーの技術営業職で培った相手の考えを引き出すノウハウに加え、来館者とともに考えることで、科学のおもしろさ、奥深さに気づいてもらえたときは、最高の喜びである。



今津杉子

脳機能イメージング研究で修士取得。博士課程中退後、出版社で編集、シンポジウムの運営に従事する中で、マスに向けて情報を発信するのではなく、一人一人と向かい合いたいと考え未来館を志望。日々、科学コミュニケーションと奮闘する。



江 waters 是仁

修士(地理学)取得後、美術系歴史系ミュージアム勤務の後未来館へ。未来館で勤務をしつつ、建築計画・博物館学、ミュージアムコミュニケーション、ミュージアムマネジメント、エコミュージアム論を研究し、博士(工学)取得。来館者の視点をとした最先端の博物館学の深化をめざし、修行中。



大石和江

非常勤科学コミュニケーターとして6年。初めて来館した時のワクワク感を忘れず、概要から研究者の想いまで、来館者のニーズに合わせた解説を心がけている。20年度は理研一般公開への出張イベントや館長と語る友の会限定イベントなど企画し実施。



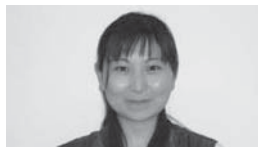
太田直小子

子供の頃から星空やプラネタリウムに興味をもち、電波天文学を専攻。テレビ番組制作会社にて技術職勤務を経て、名古屋科学館でのアルバイト経験から、科学を伝える仕事に興味をもつ。現在5階フロアで、線虫、ユノハナガニ係を担当。未来館で修行して、将来は地元名古屋で活動したい。



大西将徳

博士(人間・環境学)。日本学術振興会特別研究員、高等工業専門学校非常勤講師などを経て現職。「科学者だけが未来を決めるのではない。未来はみんなで作るもの」という思いから未来館へ。未来館が、多くの人が議論し、明るい未来を描き出す場となることを目指している。



大堀菜摘子

大学では主に化学を専攻し、その後民間で1年半の勤務経験を経て、平成20年10月より未来館へ。科学の楽しさを感じるきっかけを、科学コミュニケーションを通じてもってほしいという思いのもと、日々フロアでのコミュニケーションを図っている。



岡山悠子

火山岩岩石学で修士号を取得。民間企業で2年間勤務し、平成18年国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成講座1の受講をきっかけに平成19年4月より未来館に勤務。未来館でのあらゆる可能性の場を活用して科学コミュニケーションを深めたい。日々フロアで楽しく働いている。



小川ちひろ

大学院の研究では、高圧力下における物質の構造相転移を大型放射光施設Spring-8を利用して実験していた。その後宇宙開発関連の会社を経て、日本科学未来館に勤務。



尾崎美貴子

大学では機械工学を専攻。科学技術の進歩はバリアフリーな社会につながる?との思いで来館者とのバリアフリー化を目指す。自分がわくわくする気持ちを、他の人へ伝えるよう邁進中。



小山内裕美

大学院で生物物理学を学ぶ。博士前期課程修了後、非常勤インタープリターとして未来館に勤務。3階「技術革新と未来」、「情報科学技術と社会」で展示解説や実演などを行っている。現在、博士後期課程在学中。



小沢 淳

科学技術系シンクタンクを経て現職。専門はコンピュータ・グラフィック。前職では、情報技術を使った近未来社会の予測や、科学技術と文化芸術の融合領域における政策研究などを行った。未来館では情報科学技術分野の展示企画を担当。



風間邦彦

合成繊維製造のプロセスコントロールに関する研究で博士(工学)を取得。その後も合成繊維および微小構造体を有するプラスチック成形品の研究に従事し、平成19年11月より現職。



笠松舞

火山学を専攻。富士山をフィールドに溶岩について研究を行う。展示解説等を通して専門外の分野の面白さも知り、多くの方との共有を目指す。また、イベント「サイエンスアゴラ」の担当を経て科学コミュニケーションの型を知ることへの思いが強くなっている。



木邑優子

専門分野は環境教育と持続可能な開発のための教育(ESD)。大学卒業後、スポーツ用品メーカーに勤務。退社後、青年海外協力隊(フィジー)、愛・地球博でインタープリターなど。大学院(ストレスマネジメント領域)ではコミュニケーションについて研究した。モットーは「よく生きる」こと。



黒川紘美

生殖生物学で修士を取得。研究を通じて科学コミュニケーションに興味をもち、平成19年度より未来館へ。未来館を科学コミュニケーションにどう活かせるか悩みつつも、多くの方がなげなく科学を考え楽しめる方法を考えていきたい。



桑子朋子

大学では大好きなカエルで細胞周期を研究。JT生命誌研究館での企画編集を経て、平成20年2月に未来館へ。1年目の春・藻類の進化を展示、夏・浴衣と解剖、秋・ゲノム市民講座を企画、冬・米園科学館を調査。今後は90万人とのコミュニケーション経験を味方に、科学の共有の場を広げたい。



幸繁優子

理工学部生物物質工学研究室にて、たんぱく質の修飾を研究し、「nature」に掲載。鉄鋼先端技術研究所にて、真空中での原子、分子の動向研究。平成18年4月より未来館で、生命エリア担当。遺伝子工学と社会の関わりに興味がある。



小林直樹

博士(医学)。免疫学を専攻後、ポスドク、特任助教を経て、平成20年12月より未来館に勤務。翌年1月より実験工房を担当。「昨日と同じ解説をするなら、テープレコーダーでいい」という極論をもつ、自称・大型新人。「やればできる子」を座右の銘とし、今日もニワトリのDNAを巻き取る。



坂巻たみ

大学では航空宇宙工学を専攻。修士修了後、松本にて世界最小同軸二重反転式ヘリコプターの開発に取り組む。平成20年10月より未来館に勤務。ヘリコプターの開発を通じて学んだ日本の技術力や、ものづくりのおもしろさを広めるべく現在活動中。



提髮玲子

魚類の発生生物学、生殖生理学を学んだ後、昆虫のDNAを用いた系統分類で博士号を取得。博物館学芸員の資格あり。名古屋科学館でのアルバイト経験から、科学を伝える仕事に興味をもつ。現在5階フロアで、線虫、ユノハナガニ係を担当。未来館で修行して、将来は地元名古屋で活動したい。



笹川浩美

国民と科学者を繋ぐ架け橋を目指す。5階では「昆虫には脳がある?ない?」を問い、昆虫脳の実物を展示。研究課題「ミツバチの社会性行動と発現・制御」の魅力も紹介。農学博士(昆虫生理学・化学生態学)。平成20年度 日本動物学会女性研究者奨励0M 賞を受賞。現在 研究所・大学講師を兼任。



貞光千春

理学博士。専門は分子生物学。研究生活を経て平成17年度より未来館へ。「体験して考える」科学を目指して、研究者とともに実験プログラムをつくり来館者とともに実験を行う実験工房や、企画展の展示開発、執筆、学会発表など多様な科学コミュニケーションに日々挑戦中。



佐藤雅一

大学院博士課程でロボットの研究に従事するかたわら専門学校等で非常勤講師を務め、平成16年夏より未来館勤務。「技術革新と未来」分野、特にロボット展示・企画を担当。実験教室やロボットコンテスト等の誰でも気軽に参加できる場を提供していきたいと考えている。



芝塚紗和子

子供の頃から宇宙に興味を持ち、遠赤外線天文学で修士を取得。ITコンサルティング会社に勤務後、平成18年7月から未来館に勤務。現在は生命・フロンティアのエリアと実験工房を担当。日々、来館者の方々から直接反応が得られる仕事にやりがいを感じている。



澁谷知子

生命物理学の分野で修士号を取得。その際、あまりに実験が下手で向いてない?と痛感しITエンジニアとなるも、科学系の匂いが忘れられず、転職。平成17年夏より科学コミュニケーターとなる。平成18年秋より実験工房とフロア兼任に。現在、スマートな実験見本を見せられるよう、日々奮闘中。



嶋田義皓

ひみつ道具で大学に飛び入学し、大学院では光物性物理学の研究で博士号(工学)を取得。理科の視点から日常生活を見つめ、科学を日本固有の文化にしようと平成20年4月より未来館へ。「百聞は一見に如かず」がモットー。物理をきちんと勉強していない理系の蔓延をひそかに嘆いている。



白井曉彦

大学では写真工学、画像工学、知能システム科学。博士(工学)。カメラ・事務機メーカー、英国のゲーム開発企業、放送技術研究所、フランスでのVR技術を使ったテーマパーク研究開発などを経験し現職。アート、エンタテインメント&子供ゴコロのわかるスーパー科楽者をめざして修行中。



住田朋久

学部で数学、大学院で科学史・科学哲学を専攻する。平成20年度は、フロア業務のほか、「研究者と語ろう! エイリアン・ジュニア会議」などに携わる。外部プロジェクトにて遺伝子検査の社会的・倫理的課題の研究、温暖化や生物多様性、望遠鏡、ケイソウ化石に関する出版など。



外口 慶樹

臨場感の高い映像メディアを実現するため、嗅覚刺激の提示が視聴者へ与える心理的效果を研究し修士号を取得。通信機器メーカーで新製品の研究開発を4年間行った後、平成20年4月に科学コミュニケーターとして未来館に転職。枠にとらわれず柔軟な視点を持った科学コミュニケーターを目指す。



代島慶一

琉球大学で鳥の生態を、筑波大学大学院で自然公園管理について研究。高校の時に宇宙に興味を持ち、メガスターにあこがれて平成18年より未来館勤務。念願のメガスターやATMOS、4D2Uで宇宙の解説も行いつつ、今は変化アサガオや錯視にもハマっている。モットーは「よく生きる」こと。



高橋里英子

理学博士。生物の生態、進化、発生の境界領域をテーマとした研究に従事。GOOE研究員などを経て現職。今ここにある世界のすべてには物語があり、そこには科学が深く関わっている。その科学と呼ばれる集合は、いかに切り取れば「未来」と重ねられるのか。その手法を考えていきたい。



高見裕一

物理学を専攻し微粒子の拡散シミュレーションで修士号を取得。システムエンジニアを経て平成20年12月より未来館に勤務。子供のころに感じた科学の不思議さや、わかったときの楽しさを伝えるために日々フロアで奮闘中。目標は来館者との対話の中で新たな発見を共有すること。



橘美由紀

植物生態学、主に極地の植物をテーマに修士号を取得。修了後、未来館にて解説業務に従事。これまで、VPツアー、特別来館者向け英語ツアー、特別企画展の展示企画協力や解説に携わった。



谷井裕美子

小さい頃から自然科学に興味をもち、大学では地質学を専攻し、構造地質学で修士号を取得。平成17年4月より勤務。フロアで解説する中で、自然科学以外の分野にも関心をもち、色々な分野で科学コミュニケーションができるよう日々勉強を重ねている。



植野 貴子

結晶材料工学科にて酸化チタンを用いた水の可視光分解をテーマに学士を取得。その後、大学にて同テーマで研究員として勤務後、平成17年11月より未来館に勤務。来館者とのコミュニケーションを楽しみつつ、その難しさを実感する毎日。日々邁進中。



寺村 たから

ドラえもんを読んで理科好きに。理学修士（生体低分子化学）。食品メーカー、移動通信会社を経て未来館へ。仰々しくなく自然に、科学の面白みを伝えられる科学コミュニケーターになるのが目標。まずは、未来館での活動を通じて、人々の科学に対する想いをたくさん吸収したい。



豊田 倫子

小学生の頃から理科全般に興味をもつ。大学では粘土鉱物を用いた新材料の研究を、大学院では海底堆積物の分析による古環境復元の研究を行う。平成20年10月より未来館勤務。その時々に出会う来館者の目線に合った科学コミュニケーションを行うことが、目下の目標。



中川 映理

化学を専攻。昔から好きだった美術品と化学を結びつけようと、考古化学をテーマにして研究を行う。修士を取得後、企業で液晶ディスプレイ部材の仕事に携わる。平成19年11月より未来館へ。さまざまな分野で科学コミュニケーション活動をしていきたい。



中村 江利子

大学で環境科学や生物科学を学び、環境計量士（濃度関係）と技術士補（環境部門）などの環境関連の資格を取得。銀行システム開発の仕事を経験後、大学院に戻り海洋生物の研究で修士を取得。平成15年より未来館勤務。海洋生態系や環境問題について強い関心を持っている。



長沢 まゆみ

植物病理学を専攻し、修士号を取得。まずやってみる！をモットーに（目標に、意識して）学会発表、「展示の前で研究者に会おう」のイベントなどを担当。科学を味方につけるべく模索中。



二瓶 亜三子

大学院では考古遺物の化学分析のため、トルコの遺跡発掘調査に参加。その後、分析機器メーカーにて生体用の原子間力顕微鏡の開発に従事。科学の感動をより多くの人々とわかち合うことが目標。



橋本 裕子

理学博士。専門は生化学。学術振興会特別研究員、非常勤研究員、民間企業でのサイエンスライター等を経て未来館へ。企画展・医療の常設展示・実験工房・サイエンスカフェなどに関わる。研究者ばかりでなく、誰もが科学を気負わずに語り、人生が豊かになる出会いの場を作っていきたい。



廣木 一 亮

共役系高分子（導電性高分子）の合成と物性評価の研究で博士（工学）を取得。専門は有機合成化学・高分子化学・グリーンケミストリーなど。未来館では「技術革新と未来」の展示改修や4Kデジタルシネマ「かくやの夢」にて声の出演に携わる。



広瀬 信吉

理工学部物理学科卒業、表面物理を専攻し、STM等の真空装置を用いて化合物半導体の表面を観察し構造解析をする研究に従事。平成19年4月より未来館に勤務。研究者と社会との橋渡しができるようにがんばりたい。



藤井 友紀子

リスが好きで博士を取得。みんなからリス博士と呼ばれることを目指して日々邁進中。将来は森林の動物を用いて環境教育を行っていきたいと考えながら、未来館で様々なことを勉強している。



藤谷 哲

大好きな情報科学技術を楽しみご紹介できるサイエンス・コミュニケーション実践の場としての未来館に魅力を感じ、開館時より非常勤で着任。中高講師をしながら平成12年博士号取得（工学）、専門は教育工学。現在都内大学准教授、担当科目は教育方法技術、情報科教育法等。



Vincent Blech

パリのオルセー大学で博士号を取得後、東京大学生産技術研究所にて2年間ナノテクノロジーを研究。未来館では「技術革新と未来」を担当。常設展示、企画展などさまざまなメディアを使って、多くの来館者にナノテクノロジーのすばらしさを伝えたいと考えている。



戸次 真一郎

大学院では理論天文学を専攻。未来館では「すばる望遠鏡がめざす宇宙」の展示改修や「エイリアン展」に展示解説担当者として関わる。科学にまつわるさまざまな話題を物理学的もしくは社会的な点から考えることで意外な側面を見つけられるようなコミュニケーションを目指している。



干場 真弓

日本周辺の古海洋環境の復元をテーマに博士号取得。どんな現象にも興味をもち、どんな分野でも楽しく感じられるという特技(?)をもつ（最近は巨大建造物と乗り物が好き!）。未来館では、「科学がわかる 世界がかわる」ことの素晴らしさを伝えるべく修行と奮闘の日々を送っている。



細川 聡子

植物の匂い認識の研究で修士号を取得。博士課程途中で研究を離れ、大学のシンポジウムやセミナーをインターネットで配信するプロジェクトに従事。平成19年度4月より未来館に常勤として勤務。大学や研究所に眠っている驚きと感動を多くの人に伝えたい。



堀井 京子

物理化学専攻で修士取得後、数年間精密機器メーカーにて技術者として開発に携わり、未来館での非常勤勤務に至る。学生時代から歴史、音楽、美術に関心があり、文化や日常生活の一部としての科学、という視点をもって来館者と対話することを心がけている。



堀川 麻由子

大学で理科教育学を学び、DNAを使った植物の系統分類について研究。卒業後、未来館に勤務し、サマーナイトイベントや春休みイベントに携わるほか、5階フロアチーフも務めた。生命や宇宙の神秘を多くの来館者に伝えていきたい。



増渕 ふみ

農学生命科学部応用生命工学科卒業。細胞性粘菌についての研究を行っていた。現在でも粘菌を愛してやまない。



松岡 均

理学博士。専門は、宇宙科学、地球物理学。国内外での研究生活を経て、平成16年1月から未来館に勤務。未来館では、国際宇宙ステーション（ISS）、すばる望遠鏡、4次元デジタル宇宙（4D2U）、メガスターなど宇宙・天文関係の展示開発に携わる。



松島 淳一

専門は有機合成化学。生理活性物質の合成研究をテーマに修士号を取得。平成17年5月より未来館勤務。平成20年4月より3階フロアチーフ担当。良い仕事のためには健やかな体と心が必要であることを未来館で学ぶ。第一優先事項は栄養と睡眠。



丸山 智子

薬学修士を取得後、食品会社の創薬研究部門に勤務。平成20年10月より未来館に勤務。来館者にとって未知の科学知識を、どれだけわかりやすく楽しく伝えられるかを日々模索中。さまざまな方との出会いや会話を通して視野を広げ、成長していきたい。



水野 壮

専門は分子生物学、毒物学。害虫防除の研究で博士号取得。平成20年4月より常勤として勤務。バンドでドラムを叩きつつムシのかつこよさを思い、三国志の描く男のロマンに身を馳せつつ科学とは何かを探索する、考える輩の一人。



三ツ橋 知沙

イネの種子形成に関わる因子の研究を行い修士号取得。現在は5階のフロアチーフ。引き続き、実験工房との兼任スタッフとして、日々奮闘中。



森井 晶子

大学院では生殖幹細胞を研究し修士号取得。専門は分子生物学、発生生物学。平成19年4月から未来館に勤務。5階フロア活動のほか、平成20年度は、企画展「エイリアン展」を担当した。



森田 由子

虫好きが高じて大学で生物学を学ぶ。分子生物学から採集まで、なんでも「あり」の幸福な昆虫研究生活の末に理学博士を取得。その後、背骨のある生き物への好奇心から製薬会社に転進し、癌を研究していた。未来館では、ライフサイエンスと他の領域にまたがるような仕事をしたいと思っている。



山口 珠美

幼いころから自然に興味をもち、大学では地質学を専攻。在学中に火山に魅了され、草津白根火山および浅間火山を研究フィールドに修士号を取得。卒業後、高校理科教諭を経て、平成19年4月より未来館へ。幼いころ感じた不思議だなあという気持ちを大切に、日々勉強中。



山口 美佳

医学博士。子供時代に宇宙飛行士を志し、エアロビクスを極めたものの、脳の不思議にとらわれ脳科学に転向。薬物依存などの病気の脳の研究をしていた。未来館では企画展や常設展示、科学記事などの制作に関わる。



杠 知子

イオン付着法と飛行時間型質量分析法を組み合わせた質量分析装置の開発をテーマに修士を取得。物理学科への進学と科学に携わる仕事に就くことは、自他ともに認める意外な展開。人との出会いで大きく人生が変わることをしみじみ感じている。



吉田 健二

活性酸素種による神経細胞死をテーマに修士号を取得。出版社での営業職を経て、平成20年4月より未来館に勤務。最近の自身のテーマは「きずく」。